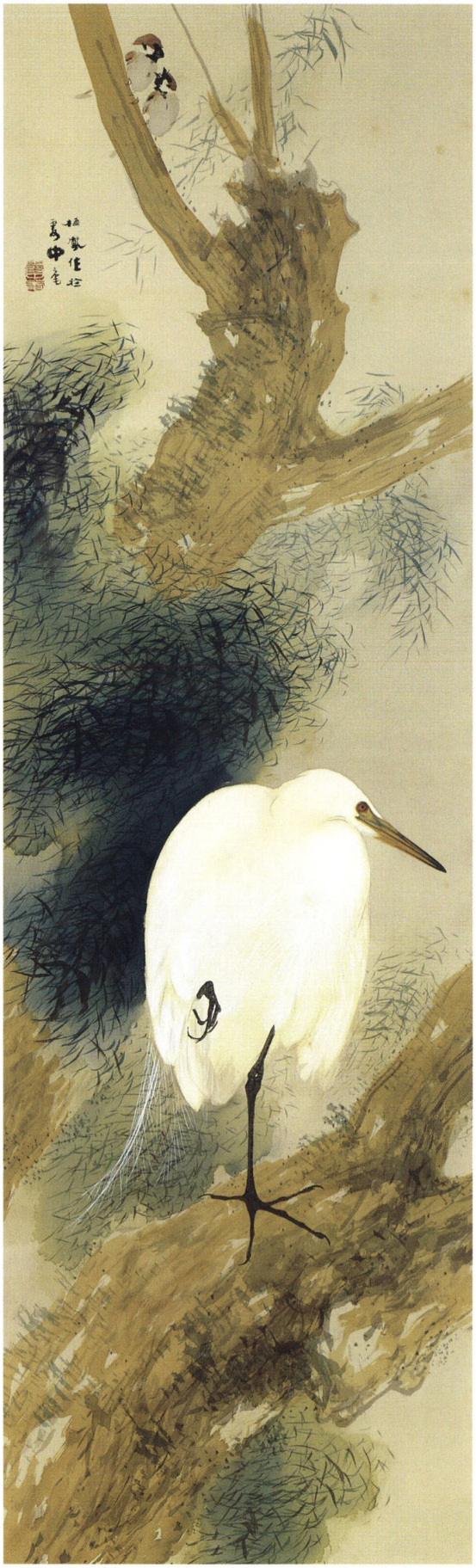
竹内栖鳳

竹内栖鳳（一八六四～一九四二）は、明治から昭和前期にかけて、京都で活躍した画家で、伝統的な四条派の画風に、西洋画法等を取り入れ、独自の画風を展開した。展覧会への出品、受賞はもちろんのこと、染織の下絵等にも取り組み、後進の指導にもあたって、京都画壇の第一人者として大きな影響力を持った。大正二年に帝室技芸員となり、昭和十二年には第一回の文化勲章を受章している。

本作品は、香淳皇后の母君、久邇倪子様の遺物として、昭和三十二年頃、兄君の朝融氏より献上された作品で、雨上がりの爽やかな明るさが、情趣豊かに描かれている。箱書より、大正十三年五月の作品であることが分かり、この年一月の昭和天皇と香淳皇后の御結婚に由縁ある作品であることが想起される。



98　雨霽　大正13年

・各展覧会図録中，作品名や作者，制作年などの表記は，図録発行当時のものです。

・三の丸尚蔵館の展覧会図録の著作権はすべて宮内庁に属し，本ファイルを改変，再配布するなどの行為は有償・無償を問わずできません。

・三の丸尚蔵館の展覧会図録（PDF ファイル）に掲載された文章や図版を利用する場合は，書籍と同様に出典を明記してください。また，図版を出版・放送・ウェブサイト・研究資料などに使用する場合は，宮内庁ホームページに記載している「三の丸尚蔵館収蔵作品等の写真使用について」のとおり手続きを行ってください。なお，図版を営利目的の販売品や広告，また個人的な目的等で使用することはできません。

香淳皇后の御絵と画伯たち
三の丸尚蔵館展覧会図録No.43

編集　宮内庁三の丸尚蔵館
制作　株式会社東京美術
翻訳　横溝廣子
発行　宮内庁
平成十九年三月二十七日発行

© 2007, The Museum of the Imperial Collections